

## 京都ならではの STEAM 教育充実に向けた調査研究検討会議について

### 1 設置趣旨

明治維新による急激な人口減少で、都市存亡の危機に直面した京都の先人たちは、「まちづくりは人づくりから」と、「竈金（かまどきん）」と呼ばれる私財を出し合い、1869年（明治2年）に、日本初となる学区制小学校（番組小学校）を創設しました。この創設の原動力となった町衆の伝統と進取の気性、自治の精神は、京都の「ひらかれたまち柄」として脈々と継承され、「市民ぐるみ・地域ぐるみで一人一人の子どもを徹底的に大切にす」京都市教育の発展の基盤となっています。

番組小学校創設から100年経過した1969年（昭和44年）、人類が初めて月面に着陸し、科学の新たな歴史が幕を開ける中、「京都に名実ともに日本一の科学館を建設したい」という市民の願いと各界の皆様方の多大な御尽力により、『科学者精神』を体得した将来の市民の育成」を設立目的とした「京都市青少年科学センター」が開館いたしました。以来、約55年にわたり、京都の大学や企業、博物館等関係機関、市民の皆様を支えられ、科学への興味や探究心を触発し、「科学する心」を育む拠点としての役割を果たしてきました。

一方、グローバル化の進展やAI（人工知能）技術の普及、自然災害など、時代の変化が複雑化・加速化の一途を辿る中、子どもたちをはじめとした一人ひとりが、時勢に翻弄されることなく、自然や歴史、文化に触れながら豊かで鋭敏な感性を育み、個性に応じて様々な事物を探究し続け、Well-beingな人生の創造につながるような、夢中と感動に溢れた学びの場が求められています。

以上を鑑み、京都の「ひらかれたまち柄」の強みが最大限に生かされ、実社会での問題発見、その解決手法の模索、新たな価値の創造を志向する「京都ならではの STEAM 教育」の充実に向け、京都市青少年科学センターが、これまでの蓄積を大切にしつつ、その拠点たるに相応しい科学館へと飛躍を遂げるべく、調査研究を進めます。その一環として、今後の科学館としての「使命」や「あるべき姿」、「果たすべき機能」、「機能を実現するために必要な環境」等について、多角的な視点から議論を深めていただくため、検討会議を開催します。

## 2 委員構成

(区分内五十音順、敬称略)

区分	氏名	所属・役職名等 (◎：座長)
S T E A M 関 連 分 野 有 識 者	浅川 智恵子	日本科学未来館 館長
	小山田 徹	京都市立芸術大学 学長
	塩瀬 隆之	京都大学総合博物館 准教授
	チースレロヴァーク クリスティーナ	(公財) 有斐斎弘道館 研究員／栖賢寺 茶頭
	仲田 匡志	(株) SOU 代表取締役／U35-KYOTO プロジェクトマネージャー
	野口 範子	同志社大学 生命医科学部 教授
	◎山極 壽一	総合地球環境学研究所 所長
経 済 団 体	細川 万理子	京都商工会議所 産業振興部長
	本永 治彦	青少年と科学の会 代表代理／(公社) 京都工業会 専務理事
保 護 者	菊田 めぐみ	京都市 PTA 連絡協議会 庶務
学 校 関 係 者	岩佐 峰之	京都市立高等学校長会 会長／西京高等学校長
	小滝 俊則	京都市立中学校長会 会長／音羽中学校長
	齋藤 麻友子	京都市立幼稚園長会 会長／伏見板橋幼稚園長
	清水 美穂子	京都市立総合支援学校長会 会長／西総合支援学校長
	神内 貴司	京都市小学校長会 会長／下京雅小学校長
行 政	瀬戸口 烈司	京都市青少年科学センター 所長
公 募 委 員	梶本 大雅	市民公募委員
	小西 航希	市民公募委員

※所属・役職名等は、第4回会議開催時点（2026年2月24日）の内容。

### 3 開催状況

#### (1) 検討会議のスケジュール

	日時	内容（予定）
第1回	2025年 7月 8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>STEAM 教育の意義</li> <li>STEAM 教育充実に向けた科学館への期待</li> </ul>
第2回	2025年10月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>STEAM 教育の拠点に相応しい科学館として備えるべき機能（役割）等</li> </ul>
第3回	2025年12月 2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能（役割）を果たすための環境等</li> </ul>
第4回	2026年 2月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能（役割）を果たすための環境等</li> <li>STEAM 教育充実に資する科学館の存在意義（議論の総括）</li> </ul>
まとめ 提出	2026年 6月 9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1～4回会議の議論を整理したまとめの提出</li> </ul>

#### (2) ワークショップ「まちびとよりあい～京都で STEAM～」の実施

上記（1）と同時並行して、京都ならではの STEAM 教育、その充実に向けた科学館の姿などを市民と共に考えるワークショップを3回程度開催（参加者は公募）。

#### <ワークショップの実施状況>

	日時	内容
第1回	2025年 8月24日	「京都でできる STEAM って何だろう？」 →身近な体験や事例をもとに「STEAM のタネ」を見つける。
第2回	2025年 9月 7日	「京都ならではの STEAM の学びは？」 →京都の地域性を活かした STEAM の学びの空間や体験などのアイデアを広げる。
第3回	2025年11月 9日	「京都で STEAM を育てていく仲間集め」 →第2回の内容の実現に向けた協働の輪を広げ、参加者が「どう関わられるか」を宣言する。

#### <イメージ>

